FATSO

取り扱い説明書

（株）アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

＊ この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。
無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

Features

様々なアナログ・サウンドの質感を自由自在にアドオン！
デジタルレコーディングで失われたあらゆるアナログの質感を原音にプラスできます。それも全くのノイズレスでスムースな0.06%～20%までのハーモニクス（倍音成分またはディストーション（THD））をプラスできます

コントロール可能なアナログテープ・サーチュレーション
FATSOはアナログテープに代表される、あのテープサーチュレーションの質感をWarmthコントロールノブで自在に調整できます。

スイッチング可能なトランスフォーマー回路
NEVEやAPIなどのクラシック銘器に代表される素晴らしく、音楽的な質感をアドオン可能です。この効果はフリーケンシーに美しいハーモニクスを加え、リッチでシルキーなあの銘器の質感を表現します。

7タイプのコンプレッサーモード
G.P、BUSS、SPANKのモードを組み合わせて7タイプの優れた、使えるプリセットを実現。Distressor-B.I.O譲りのクラシックニー・コンプレッションを実行します。コンプレッサーのステレオリンクも可能です。

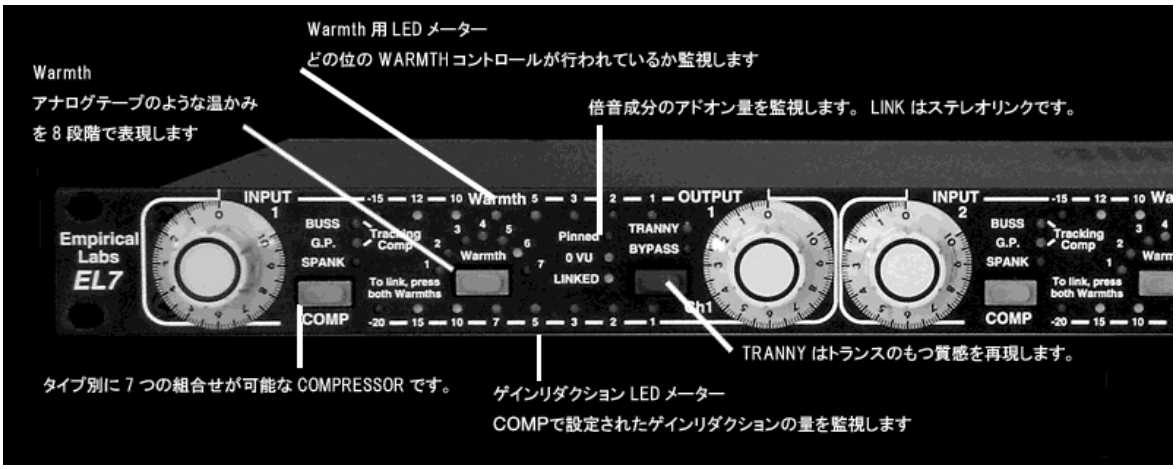
SPANK！
このリミッターモードはダイナミックレンジをスマッシュします。素晴らしくラディカルな音質を持ち、またデジタルレコーダーへのクリッピング防止などにも最適です。

見やすく大きいDISTRESSOR-B.I.O譲りのビッグ・ノブ
細かくナンバリングされた見やすいノブはセッティングのリコールも簡単です。

ハーモニクスのアドオン量を監視するLEDメーター
0VU LED(1%)とPinned(5%)LEDでハーモニクスのアドオン量を視覚的に確認できます。どの位のアマウントでサウンドに温かみをプラスしているかが即判断可能です。

Side Chain インプット/アウトプット
コントロールシグナルをEQ可能なサイドチェイン端子が装備されています。

What is Fatso??
FATSOは本物のアナログデバイスをデジタルコントロールして無限の音楽的なサウンドを創造できます。（これはデジタルシミュレーションではありません！完全なアナログデバイスなのです！）例えばオールド真空管、クラスAのディスクリート、磁器テープなどのアナログ特有の質感を表現します。この2chの素晴しいプロセッサーによってピークレベルを増加させることなく、音楽的な質感をシグナルに与えることが可能になります。更にDISTRESSOR-B.I.Oで培った素晴しいクラシックニー・コンプレッションをも装備しています。これらのコンプレッションはそれぞれのモードで固定されたアタックとリリースを持っています。あらゆる機能の組みあわせによってデジタルの冷ややかなサウンドを、素晴しく活き活きとしたアナログ感溢れるサウンドに変化させることが可能です。FATSOは基本的には以下の4つの機能から構成されます。
1）ハーモニック・ジェネレーション&ソフトクリップ
2）ハイ・フリーケンシー・サーチュレーション（Warmth）
3)トランスフォーマー＆テープヘッド・エミュレーション
4)クラシック・ニー・コンプレッション



Using the FATSO for the first time

XLRまたはフォーンジャックの入出力は2番ホットです。
FATSOをオペレートするときには必ずコンプレッサーセクションからの調整をお勧めします。何故なら FATSOのコンプレッサーセッティングは他のFATSOのプロセシングに相互作用するためです。ボーカルなどのソースが納得いくサウンドでない場合などには、まずTRACKINGコンプ（緑と黄のLEDが点灯）を試すと良いでしょう。インプットを5dB位のゲインリダクションが得られるように調整し、アウトプットをバイパススイッチを切り替えながら調整していきます（2回バイパススイッチを押す）。このサウンドの結果がまだ温かみが少なく、満足いくサウンドでなければ以下の2つの方法を試してみてください。1つはTRANNYスイッチです。このスイッチはNEVEなどに代表されるトランスフォーマーのサウンドを本物のトランスフォーマーを通すことで実現します。ミッドレンジをエンハンスして、200Hz以下の周波数にファットなハーモニクスが加わり素晴しいサウンドになります。またもう1つの方法はWARMTHコントロールです。このサーキットはもちろんボーカルにも最適であり10kH周辺の高域にテープコンプのような柔らかみを持つ独特な現象をシミュレートできます。通常ならEQを施すところに是非このWARMTHコントロールを適量加えてみてください。素晴しいアナログの温かみをアドオンします。ただし0-7のコントロールを上げすぎには注意してください。通常1-5のWARMTHで十分ホットなサウンドが得られるでしょう。WARMTHとコンプレッサーを同時に使用する場合は両者が密接に影響しあいます。またFATSOは常に（バイパスにしない限り）サーチュレーション回路を通過していますのでWARMTHだけ、COMPRESSORだけ、TRANNYだけなどのミニマムなセッティングでも、サウンドに美しいアナログ感を与えることが可能です。FATSOは可変範囲が非常に広いのです。多少のアナログ質感を与えるだけでサウンドは満ち溢れた印象になります。

Example Setting

FATSOは非常に簡単な操作で音楽的なアナログの響きに原音をインテグレートできます。まず以下の4タイプのFATSOが持つ基本的な効果について説明します。

1、Harmonic Generation & Soft Clipper

ハーモニックジェネレーターは3極真空管などに代表されるビンテージサウンドを決定付けている、2 次/3 次の倍音成分（歪み）をセッティングにより 0.06%～20%の間でソースにアドオンする事が可能です。この倍音成分は少量を加えることで素晴らしく音楽的な響きに、過剰に加える事でフリークアウトした過激な歪みを加えることも出来ます。アドオンしている量感は Pinned または 0VU の LED で視覚的に確認できます。本物のアナログテープとは違ってヒスノイズを発生させることがなく、アナログの利点だけを原音に加えます。

2、High Frequency Saturation

“Warmth”と呼ばれる 0-7 の 8 段階プリセットによって加えられる高次倍音に対するゲインコントロールサーキットです。このコントロールによりアナログ磁気テープの飽和により発生する、高周波帯域が柔らかみを持つ独特な現象をシミュレートできます。一般にテープコンプと呼ばれるサウンドでもあります。Warmth の量感は本体上部の Warmth メーターで視覚的に確認できます。

4、Tranny & Tape Head Emmulation

ビンテージ NEVE などのインプット/アウトプット・トランスフォーマーによる中域へのエッジ感や低域へのリッチなハーモニクス成分をシミュレートできます。深みのある独特なトランスサウンドはピークレベルを変更する事なく、ソースを 1 段階ラウドでディープにしたような質感をアドオンできます。

5、Classic Knee Compression (Distressor Style)

4 スタイルのコンプ/リミッターを組合わせて銘器 Distressor-B.I..O スタイルの幅広い”Soft Knee Compression”サウンドを得られます。レベルのばらつき感を抑え、太く締まった音質が簡単に得られます。もちろんヴィンテージ銘器のシミュレーションも完璧な質感で再現することが可能です。

MIX DOWN and MASTERING

2トラックのミックスソースにFATSOを使用する事でスィートな高域、ファットなローエンドを特徴とするアナログテープレコーダーで録音したようなサウンドに変化させる事が可能です。この場合BUSSタイプのコンプレッサーを選択して、ハイをソフトにするためWARMTHを、ローエンドに温かいハーモニクスとエッジが欲しい場合はTRANNYをオンにします。
もちろん多少の効果のみを狙う場合はコンプレッサーをオフにします。0dB VUのLEDが点く位までインプットを調整します。まずこの地点でアナログテープのような素晴しいサーチュレーションが微量追加されています。次にTRANNYを必要であればオン、この事でローエンドが素晴しい温かみを得るでしょう。デジタルレコーディングには正に必要なサウンドでしょう。またアナログテープのような質感が必要な場合はWARMTHを使用してみます。1-5のWARMTHはサウンドに素晴しいアナログ感を加味します。
ミックスに素晴しいアナログ感と音圧を簡単にプラスできます。

DJ Level Controler

FATSO を DJ ミキサーと組合わせてファットなサウンドでクラブ DJ をプレイ可能です。BUSS コンプレッサーはレベルを均一化して、WARMTH はトップエンドを EQ したような質感を、TRANNY はローエンドをタイトにするでしょう。

VOCAL

FATSO をボーカルに使用する方法は沢山のチョイスがあります。録音時に使用する場合は TRACKING コンプレッサーが最適です（緑(BUSS)と黄(G.P)の両方の LED が点灯）。これは Urei LN1176 タイプの速いアタックとリリースが特徴のプリセットです。ダイナミックなボーカルスタイルなら 10dB ほどのコンプレッションが理想です。また SPANK コンプレッサーを選ぶとピークを素早く捕らえることが可能です。もしトップエンドが納得いかない場合は WARMTH を追加します。6dB くらいの WARMTH がピークで得られる程度が良いでしょう。これはディエッシングではありませんが耳障りなシビラントに非常に有効です。またヒスノイズにも有効です。TRANNY はローエンドを温かくします。また非常に低い周波数を多少ロールオフできます。

BASS

FATSO はベースサウンドに非常に効果的です。ベースサウンドがピュア過ぎる場合 TRANNY とサーチュレーション回路が最適です。アッパーハーモニクスが追加されればサウンドは非常にミュージカルな響きになります。ダイレクトベースのサウンドが見違えるでしょう。また FATSO のコンプレッサーセクションはベースに最適です。BUSS コンプレッサーはダイナミクスやトランジエントを失わずスムースなニーを実現します。またグランジな効果を与えたい場合はインプットを上げてください。GP コンプレッサーを選択するとロングリリースを得ることができます。SPANK コンプレッサーは最高にアグレッシブなサウンドになります。また WARMTH コントロールはトレブリィーでオーバーEQ なベースサウンドを温かくなじんだサウンドに出来ます。

ELECTRIC GUITAR

非常に幅広い利用法が考えられます。エッジのあるアタック感には TRACKING コンプが最適です。もしギターがダイナミック過ぎると感じる場合は FATSO 特有のサーチュレーションとコンプ、そして TRANNY がその解決策となるでしょう。ギターサウンドにもっとファットなタッチが必要な場合は BUSS タイプのコンプレッサーを試してください。アタック感を失うことなく効果が得られるでしょう。ピーキーなサウンドをもつギターには WARMTH コントロールのダイナミック・アクションは素晴しくスムースに反応します。TRANNY はミッドレンジのフォーカスに効果的です。ハーモニックスがローとミッドに加わり TRACKING コンプレッサーと組合わせたスムースなソロギターに最適です。COMPRESSOR から先に調整することを忘れないでください！WARMTH はや TRANNY は COMPRESSOR の設定に関連してサウンドが変わります！

ACOUSTIC GUITAR

つまびくタイプの楽器には FATSO のプロセッシングが素晴しい効果を生出します。FATSO はギリシアのエスニックな楽器にも良く使われ、GRAMMY で、アテネのクラブで、大きな評価も得ているほどです。もちろんアコースティックギターにも素晴らしい効果を与えてくれます。TRACKING コンプ（緑（BUSS)と黄(G.P)の LED が両方点灯）を最初に試しましょう。この設定による速いアタックはピッキングノイズをアテネートし、サスティーンを伸ばし、フルサウンドで"Glassy"なサウンドを生出します。また WARMTH 回路はピッキングのエッジを簡単に捕えることができます。ソロ楽器にノートごとのアタックを失わず、より音圧のあるサウンドを生出せます。また時に楽器のダイナミックレンジを確保しつつ少しだけスムースな感じを加えたいと思うでしょう。WARMTH こそこの用途に最適です。WARMTH を 3-10dB くらいの HF アテネーションがかかるくらいに調整するとナチュラルなサウンドになります。アコースティックギターに FATSO を使えばサウンドは明快になり EQ をするより明らかに良くなります。

PIANO / KEYBOARDS

アコースティックピアノは通常アタックを少し低く、サスティーンを多くすればミックスにフィットすることが多いでしょう（例外は沢山ありますが・・）。ブルース・ホンズビーのようなピアノ（生ピアノまたはリアルなサンプリング音源）はミディアムなアタックとリリースを持っています。BUSS タイプのコンプレッサーセッティングはホットでピークに多少の荒々しさをプラスします。TRACKING タイプでは速いアタック、GP タイプも試す価値があるでしょう。もし濃密なミックスが必要なら SPANK でダイナミックレンジを平らにならし、ダイナミックレンジをスムースにダウンすることができます。これはあの BEATLES の作品などではよく聞かれるサウンドです。非常に濃密な楽器アレンジの中でピアノがしっかりと聞こえてくる素晴らしくクラシックなサウンドです。グランジまたはサーチュレーションのパートでは FATSO は KEYBOARD や PIANO に温かみを加えられます。WARMTH を使えばエッジをソフトにしてリッチな音質に仕上げます。サンプル音源やキーボードの平坦なサウンドを素晴しいアナログ感で生き生きと甦らせます。

DRUMS

FATSO のサーチュレート回路は BYPASS 時以外は常に信号に加えられます。ピークを 3-6dB 平均レベルでスムースにしています。ディストーションインジケーターの LED、0VU と赤の Pinned LED はシグナルの状態をモニターするのに最適です。FATSO のWARMTH回路でアナログテープのようなトップエンドをスムースにしたサウンドを試してみましょう。5-10dB の WARMTH が最適です。かけすぎるとサウンドのナチュラルさが失われます！タンバリンなどにも試してみましょう。納得いかないデジタルレコーダーに録音された嫌なエッジ感が、素晴しく馴染んだアナログ感を含んだ温かいサウンドとなります。

SNARE/KICK/TOMS

もしベーシックなサウンドを失いたくなければ BUSS コンプレッサーをまずトライしましょう。大変ジェントルなスローコンプはトランジエントを失いません。オーバーEQ されていたり、ナチュラルさを失ってしまったサウンドには WARMTH を施します。スネアのダイナミックなヒットには 8-10k が強調されますが、WARMTH で 5-10dB のハイフリーケンシーへのリダクション効果を与えることで耳障りなエッジを除去してスムースにすることが可能です。KICK にも WARMTH でハイフリーケンシーへのサーチュレートをプラスすると良いでしょう。TRANNY も効果的です。TRANNY 回路によって加えられるローエンドへのアッパーハーモニクスはブーミーな　帯域をロールオフした後のサウンドに力強さを与えます。

OVERHEAD MIC

オーバーヘッドのシンバルサウンドには WARMTH を 4-5 にすると最高にスムースなサウンドとなります。シンバルのフロントエッジは大変素晴しく変化します！！

ROOM MIC

大半のジェントルなルームマイクのコンプレッションには BUSS タイプが最適です。しかしながら現代的な過激なルームマイクコンプレッション（リミッティング）には TRACKING タイプも良いでしょう。このタイプは幅広く 1dB から 10dB のゲインリダクションを与えてくれます。また SPAMK は DISTRESSOR-B.I.O の NUKE のようなサスティーンを持ちます。15-20dB のコンプレッションはまさに LED ZEPPELIN のジョンボーナムの素晴しいアナログドラムサウンドを創り出します。

DISTORTION DEVICE

FATSOは大変素晴しくスムースなディストーション（ハーモニクス）を 20%まで調整可能です。FATSO を歪むエフェクターとして使うパターンもあります。WARMTH は低いハーモニクスを平らにして、ハーシュなディストーションをロールオフします。TRANNY は 50Hz 付近のサウンドに 2 次/3 次のハーモニクスを加えサウンドを温かくします。ギターやベースを直接入力したい場合は外部に D.I などを通しインピーダンスマッチングを行ってください。

EFFECTS WARMER

デジタルディレイのサウンドを FATSO を使ってアナログのテープディレイのように変化させてみましょう。BUSS コンプを選び、WARMTH を少し加えます。TRANNY で低域を少しロールオフして、低域の周波数にハーモニクスを加えます。デジタルデバイスがまるでアナログデバイスのような響きを持つでしょう！

Compression and its Ratios

FATSO のコンプレッサーセクションは TYPE 別になっています。これらは THRESHOLD, RATIO, ATTACK, DECAY を含むプリセットです。非常に考え抜かれたプリセットパターンは、素晴しいコンプレッションを簡単に実現可能です。これらは 4 つのディスクリートなコンプレッサーと、それぞれの組み合わせで幅広いサウンドを実現可能です。

以下の基本 4 スタイル、組合わせによって7種類のスタイルが用意されています。

1,BUSS--- 2:1RATIO のソフトニー・タイプ。遅めのアタックと速いリリース設定。大変ソフトなニーをもち 5dB 以上のコンプレッションでハードなヒットになります。DBX160 タイプ。

2,G.P.--- 中くらいのアタックに遅めのリリース。大変自然なかかり具合が特徴の万能タイプ。RMS レベルを常に均等に保ちます。LA2A や MEEK、ADL などのオプトカプラー（光）タイプ の自然なコンプレッションが特徴。

3,Tracking Comp--- BUSS と GP の両方の LED が点いた状態。Urei 1176 タイプの往年のサウンドとなります。ボーカルや楽器のトラッキング時（かけ録り）～4 つ押しっぽいアグレッシブサウンドまで広く利用できる。

4,Spank --- 70 年代の SSL のトークバック・リミッターのハイレシオ感をシミュレートしている。この SPANK ボタンは他の 3 つのスタイルと組合わせが可能であり、組合わせると特にアグレッシブなリミッティング・サウンドを叩き出します。リリースカーブは最初は速く、次に遅くなる独特なカーブとなり FATSO のコンプレッサーサウンドの代名詞ともなっています。

5、6、7 SPANK+BUSS、SPANK+G.P、SPANK+G.P+BUSSの組合せも可能です。

Just What is Soft Knee?

ニーとはコンプレッション特性が描くスレッショルド付近のカーブの事です。ハード・ニーならばこれは折れ線となります。このニー特性がコンプレッサーのキャラクターを大きく左右する重要な要素となっています。ソフト･ニーはスレッショルドに近づくと徐々にゲインリダクションが始まり、スレッショルドを過ぎある程度のところまでは、レシオが緩やかに設定されたレシオに近づくように無段階に変化し、スレッショルドを大きく超えたところになるとハード・ニー特性と一致するようになります。
このソフト・ニー特性により、軽めのコンプレッションや、オーバーロードの対するピークリミット、どのような場合も音楽的でスムースなコンプレッションを実現します。このソフト･ニー特性をFATSOではを各TYPEごとに最適なニー特性を組み合わせて設定しておりますので、最良のサウンドを簡単なオペレーションで得られるようになっています。

Vintage Classic Emulation

FATSOは非常にクラッシックなサウンドを再現するのにも最適です。正しいセッティングによって、クラシックなゲイン・コントロール・エレメントである、オプト・カプラー、FET、2極/3極チューブ・バイアス、MUタイプのモジュレーションなど多彩なクラシックサウンドが高いレベルで再現可能です。

セッティング例

■LA2、LA3、LA4、DeMaria、MeekなどのOPTO-VCA/真空管モデル
COMPRESSOR TYPE　GP
TRANNY　ON

INPUT/OUTPUTを調整してサウンド調整をおこなってください。
FATSOのLEDメーターはオールド機器のVUメーターより素早く反応しますので、多少ハードにインプットを入れても大丈夫です(ピークで10-20dB)。

■dBX 160
COMPRESSOR TYPE　BUSS または GP
TRANNY　OFF

■LN1176
COMPRESSOR TYPE　TRACKING(緑と黄のLEDが両方点灯)

■SSLタイプのバスコンプレッション
COMPRESSOR TYPE　BUSS
TRANNY　OFF

■SSLのトークバックコンプ/Fairchild 670タイプ
COMPRESSOR TYPE　SPANK !

過激なルームマイクサウンドです。

Saturation and Distortion Generator

ビンテージ系の古い機材は現代の機材に比べると決して精密とは言えませんが、そのサウンドのカラーには素晴しい魅力があります。それらの銘器はオリジナルプライスの10倍以上で販売されることも珍しくはありません。現代の機器に使用されるオペアンプは35セントのものでさえ3MHzまでフラットで、0.02%の低歪み率を達成していますから、ビンテージサウンドと呼ばれるものからはかけ離れた特性となってしまいます。FATSOはこれらが持つ独特のカラレーション(ハーモニクス感や周波数レスポンスのシェイピング)をハーモニクス(歪み=ディストーションまたは倍音=ハーモニクス成分)を原音にプラスすることで表現可能なのです。非常に音楽的な、真空管やクラスAディスクリート、磁気テープのサウンドなどを簡単に生み出すことが可能です。

真空管回路が生出すトライオード・ディストーションは沢山の2次/3次の倍音(ハーモニクス/ディストーション)を含んでいます。これらの低次の倍音はオクターブ(2次)、オクターブ+5度(3次)となっており音楽的なト

ーンを作るのに役立っています。2次倍音は最も温かみのある成分です。3次倍音は簡単に言えば『サウンドの喰いつき感』・・ミッドレンジ　～　ローレンジへの温かみを加える真空管機器の重要なファクターです。

アナログテープのサーチュレートは主に3次倍音です。トップとボトムの波形をよりフラットにしたようなテープコンプの感覚をFATSOで表現可能です。FATSOのコンプレッションを利用して2次倍音をプラスすることも可能です。

FATSOには便利なDistortionインジケーターLEDが装備されています。これはオペレーティングレベルのリファレンスとなるでしょう。0VUと表示される黄色のLEDは1%のTHD（歪み率）が発生していることの目安となります。また赤色のPinnedと表示されたLEDは5%以上のTHD（歪み）の発生を表しています。これらのLEDはFATSOがどれだけの量の倍音成分（歪み/ハーモニクス）を原音に加えて、サウンドに温かみを加えているかの大きな目安となります。10%程度の倍音のアドオンは個々の楽器のサウンドを素晴しく、太く、アナログ感に満ち溢れたサウンドに変えてくれます。

Warmth Processor

WARMTH回路は基本的には高周波に対する高速なゲインコントロールユニットです。このオペレートは非常に高速で、入力と出力に対して気付かないほど素早く働きます。この効果はまさにアナログテープのテープコンプ（テープサーチュレーション）のサウンドをシミュレートできます。

このWARMTHコントロールは8レンジのステップコントロールとなっており（LEDが点かない状態が0、最高が7）、FATSO上部のLEDメーターはこのWARMTHコントロールに反応します。このメーターは20kHz付近の高周波に対するゲインリダクション量を正確に表しています。コンプレッサーを使用して同時にWARMTHも利用したい場合は、必ずコンプレッサーの調整から行います。コンプレッサーとWARMTHは密接に関係しています。WARMTHの0-7の8段階のコントロールは高次倍音に対するゲインコントロールサーキットのスレッショルドと考えると分かりやすいでしょう。7が一番低いスレッショルドに相当し、サウンドに最も温かみをアドオンすることができます。

WARMTHではいかにも簡単にサウンドに温かみを加えることが可能ですので、つい更にアドオンしたくなってしまいますが、かけ過ぎには注意してください。FATSO上部のWARMTH用のLEDメーターで2-5dBの僅かな量がかかっていればサウンドはリッチな温かみを得ています。もちろん10dB以上のアマウントでより大きな温かみを得ることもできます。

WARMTHは非常に使えるサウンドであるとユーザーはすぐに気付くでしょう。FATSOのコンプレッサーやTRANNY、その他のサーチュレーション回路を通さずこの効果だけでもFATSOの価値はあります。開発当初FATSOはこのWARMTH回路だけで発売される予定でもありました。しかしリサーチの結果TRANNYとCOMPRESSORなどを追加した、テープシミュレート+ビンテージシミュレートという最良の形で発売となったのです。

Tranny

Trannyはトランスフォーマーのサウンドを生出します。NEVEに代表されるオールドビンテージ機器にはトランスフォーマーが入力と出力に使用されており、そのサウンドはビンテージサウンドを代表する音質となり、現代のレコーディングにおいてもそのリッチなサウンドが頻繁に引用されています。トランスフォーマーのサウンドは決してリニアーなものではなく、倍音成分とサーチュレーションにより周波数特性が変化したサウンドです。良質のトランスフォーマーはサウンドをより音楽的に変化させます。このボタンをプッシュするとシグナルはトランスを介して倍音とピークサーチュレーションをアドオンします。特にミッドレンジとローレンジに倍音が加えられサウンドがリッチで雄大になります。まさにあのNEVEの感触です。

Bypass

FATSOは完璧なハードウェアーバイパス機能を持ちっています。オリジナルシグナルとFATSOでコントロールされたシグナルの比較を簡単に行えます。BYPASSのスイッチはTRANNYと兼用になっていますのでスイッチを2回押す必要があります。

STEREO LINK MODE

FATSOをステレオでリンクさせる時には両チャンネルのWARMTHコントロールを同時にプッシュしてください。オレンジのLINK LEDがリンクすると点灯します。FATSOのステレオリンクはFATSOの全ての機能をリンクするものではないので注意が必要です。ステレオリンクが有効なときにリンクするのは
1、CH1で設定されたコンプレッサーの様々な要素（アタック/リリース/ニーやWARMTHのセッティングによって算出されたゲインリダクションの量）をCH2に与えます
2、CH1のBypassとTRANNYのセッティングがCH2に反映されます（必ず両CHの設定を同じにした状態でステレオリンクをかけて下さい）

ステレオリンクをするときにはCH1とCH2の全てのパラメーターを同じに設定してから行うのが良いでしょう。

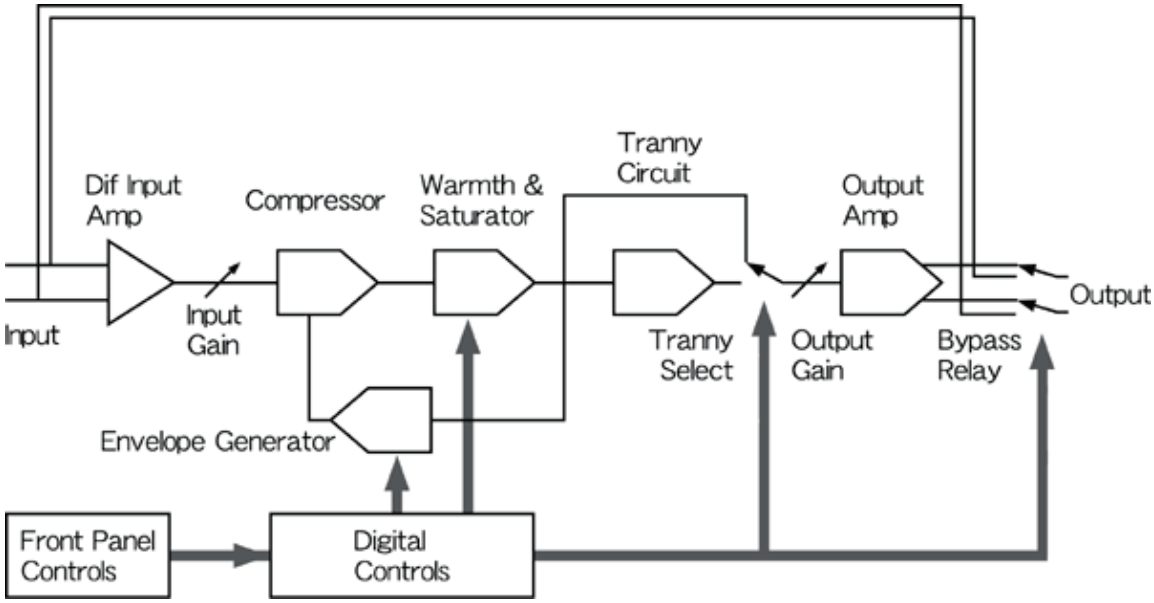
また5.1CHなどの用途に利用される場合は、バックパネルのExternal Linkジャックをもう一台のFATSOにフォーンジャックで接続すればユニット同士をリンクさせられます。ゲインリダクション量がマッチされ3台のFATSOを5.1CHのアプリケーションで使用することが可能です。

コンプレッサーのゲインリダクションのLEDは常に各CHリンクされますが、このLEDメーターは非常に高解像度なため特に最初の1dB,2dB,3dBのLEDの反応に視覚的なずれが生じることがあります。ゲインリダクション量は完全にリンクされていますので、CH1のLEDメーターを参照ください。

FATSO　PET TRICKS

1）FATSOのスタンダードなスレッショルド設定をインサートポイントにレベルコントロールをインサートすることによって可能にします。スレッショルド値が上がり、ディストーションのアマウントも増加します。
2）サイドチェインプロセスも可能です。Link OutをEQに接続してください。EQからのリターンをLink Inを接続します。サイドチェインには相当量のディレイを生じる信号や位相が反転された信号は入力しないでください。
3）素早く+4dBのテープレベルを得たい時にはアウトプットを8にセットし、インプットをコンプレッサーがかかり始めるところまで上げて下さい。これは簡単なガイドとなります。
4）SPANK！ コンプレッサーのタイプには、他のタイプを組み合わせ可能です！自在なサウンドをお楽しみください！

BLOCK DIAGRAM



Changing batteries, fuse or operating voltage

注意！！以下の作業を行う場合は必ず本機の電源をオフにして、電源コードを完全に抜いてから行ってください！大変に危険です！もし作業方法が判らない場合は弊社テクニカルサポートまで必ずご連絡いただくか、作業を委託ください！！

FUSE

ヒューズがとんでしまった場合は、まず電源コードを完全に抜いてからユニットを開けて交換可能です。フロントパネルの近くにどこにも接続されていないスペアのヒューズがセットされていますのでこのヒューズを使用することも可能です。バッテリーホルダーの側にヒューズをリプレイスします。0.2～0.6Aのヒューズが安全です。工場出荷時には0.3Aのヒューズがセットされています。もし作業方法が判らない場合は弊社テクニカルサポートまで必ずご連絡いただくか、作業を委託ください！

LINE VOLTAGE UNIT

ボルテージセッティングは工場出荷時は110Vとなっております。220Vでご利用になりたい場合は弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。